寛政九年

龍宮苦界玉手箱

通油町蔦屋版

寛政九年

特別
13
3440

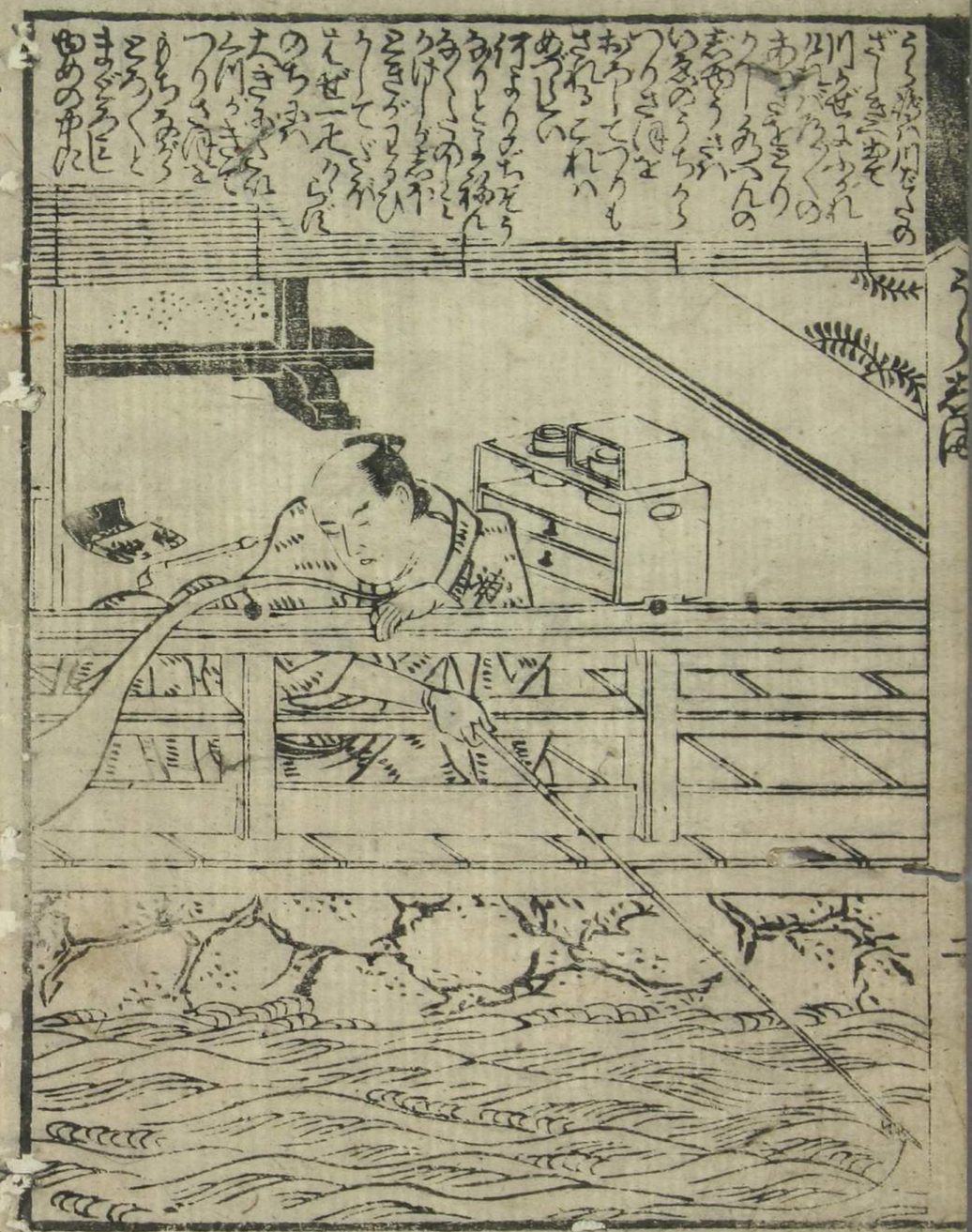
門 へ13
號 3440
卷

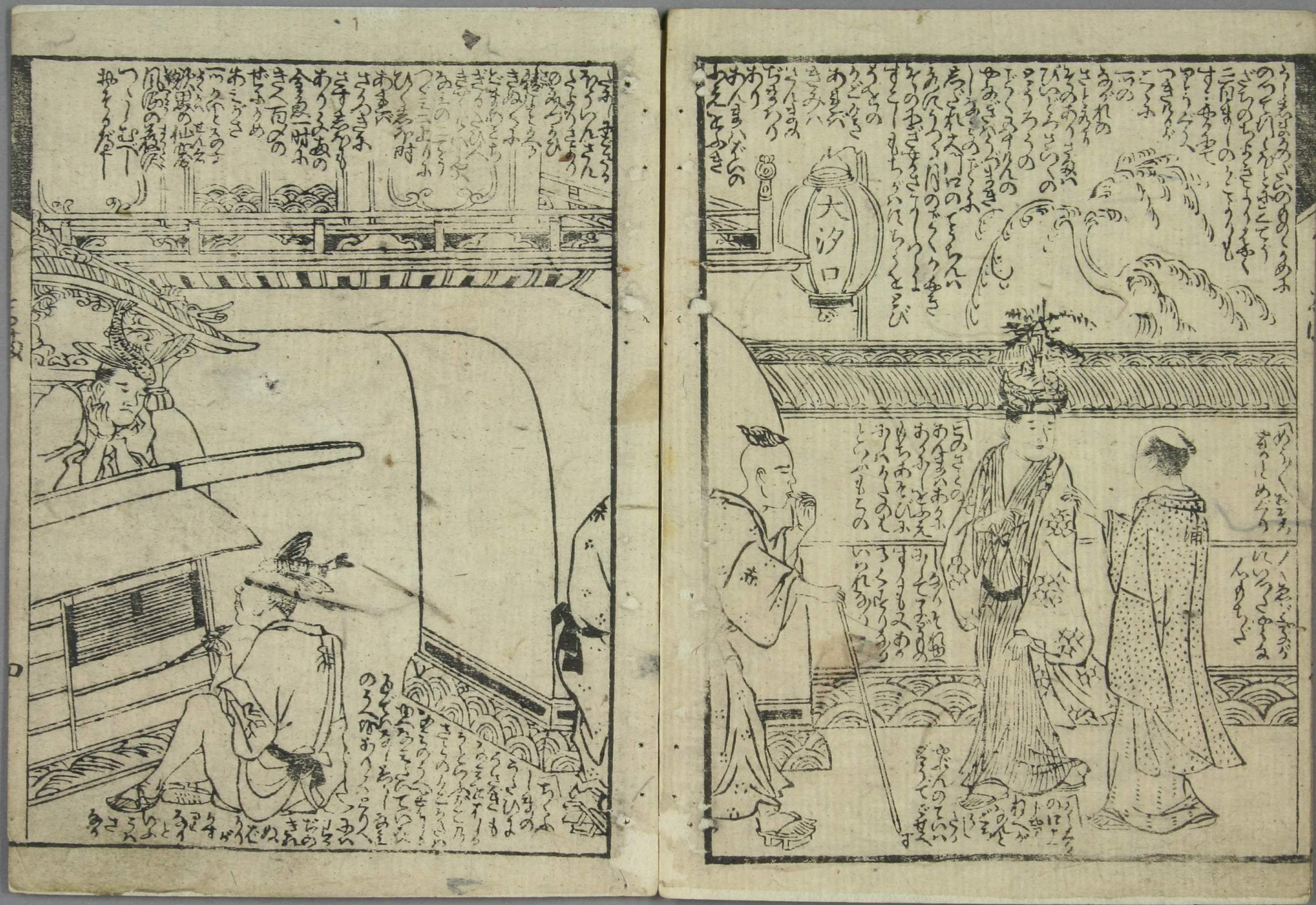
北尾重政画

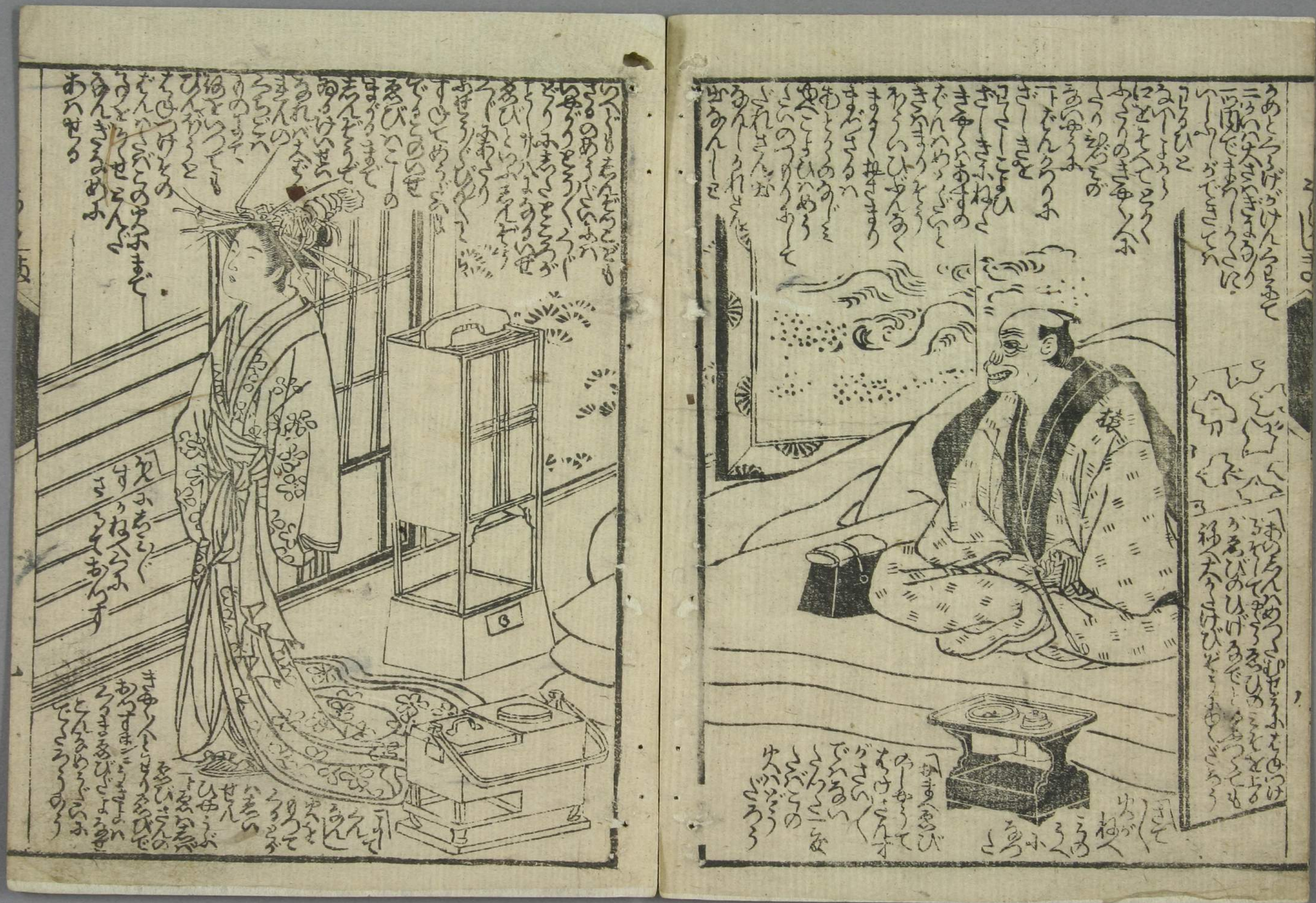
早稲田大學圖書館
昭25.7.12
購入

浪人女男の称あり。男を西方の墨あり。那を称する
是働くの人酒くの遺ふ。密乃の測。漁ひ漁ひの虚の川。
乙姫が煙草乃。紫の新玉の匂ひ。漁家が屋の
買海。ハ多年よりの者。蛋べ別漁場。も勿論隠居
暮らす。ハ人魚の婿。も終よ干物とある。亭者ハ
蛋。乳樓年毒。くく。寄ると月日貝。ゆく。梅。紀年。も
性十年の幼男。ハ。蟲。ハ。傷の水作。漁ハ。の。墨。濱の。ゆる。城
去出。ハ。現の海の水濱。ハ。第。ハ。洲。ハ。と。滅。する。ハ。ハ。
ゆる。寛政九。男の漆。ゆる。も。丁の。巳。價金
蒲。者。ハ。年。月。汐。年。の。長。年。日

馬琴述




大汐口



「さあ〜べてことを
おとこしゃと
やら神みごり神や
あわこそと

八日乃
七夕の
ど

おかこ

そんなこうこうこう

曲亭馬琴作

12